

柏原	松林山 円城寺	浄土宗	十月九日	二八
下米塚	古照山 観音寺	真言宗		一二
小松	東陽山 常德寺	曹洞宗		
両堂	不動堂		旧八月三日	一一

二、おしんめいさま

神社・寺院の信仰には特殊なもの他は、一貫して祖国・祖先を崇ぶ信仰が流れている。毎日の自分の生命・健康の安全は天変地異、医学の科学的進歩をみせなかつた時代には、ひとえに神仏に頼るほかなかつたが、その間に生れてきたのが俗に民間信仰といわれ、俗信といわれるもので、迷信・邪教とも紙一重のものもあつたが、生きてゆくための、昔の人の心のよりどころであつたことから、見逃してはならないように思う。

その一つに、現在では殆んど信じる人もなくなつたかにみえるおしんめいさま信仰がある。石原におとら婆さんという、おしんめいさまを持ち歩く人があつたというので聞出してみたが、村東にある鎮守の天照皇太神宮の入口に、神明神社の小祠があつて、古いものと、明治二十九年につくつたものと、男女二体が二組納めてあるのを知つた。明治末か、それ以後まで、持ち歩いて、肩をたいたりして、病氣快癒を祈ってくれた婆さんがあつたというから、日本でも東北地方だけに残り、特に福島県はその信仰の南限として、女が持歩く遊行神としての特色をもつしんめい信仰が、この会津地方にも、手厚かつたことを知ることができた。

大島にも一対あつて、これも今は持歩かなくなり、神棚に上つている。小松のものはあまり古くなく、よく読